

「 東海市役所より朴 泰玉さんを迎えて 」

自治体名	福井県敦賀市
研修員名	朴 泰玉
出身国	大韓民国
研修分野	一般行政
研修期間	6ヶ月
主な研修先	国際交流貿易課、地域福祉課、健康管理センター、 商工政策課、文化振興課

1 背景・目的

敦賀港は2010年に開港111周年を迎えた歴史的な国際港です。敦賀市は賑わいのある港、町づくりをめざし、港湾利用拡大の観点を踏まえ、海を隔てた国際的な港湾都市である大韓民国 東海市、ロシア連邦 ナホトカ市、中華人民共和国台州市の三都市と姉妹都市提携盟約を結んでいます。大韓民国 東海市とは昭和56年（1981年）の姉妹都市盟約締結以来、30年近くにわたって様々な交流事業を展開してきました。そのうちのひとつ、市職員の相互派遣・受入は、平成4年（1992年）より実施しており、朴 泰玉さんは14人目（女性では3人目）の受入職員となります。職員の相互派遣・受入は隔年で半年間、職員を相互に派遣し、行政の現場の一員として実務に就くことで、他の交流事業ではなかなか実現できない長期的な滞在と実地的な体験を通して、地方行政の国際化・専門化への対応を促進することをめざしています。当市からの派遣職員もこれまでに13名にのぼり、堪能な韓国語で、東海市や韓国の関係諸機関との交流に一役買っています。両市の交流事業を円滑に進める際に、東海市から今までに派遣された職員の力をお借りする機会も多く、長年の派遣・受入実績を通じて、目に見える成果をあげている事業だと言えるでしょう。

2 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

本人からの研修希望分野が多岐にわたっていたので、研修先の調整に配慮しました。また、来日当時は、日常生活・職務を送る上での日本語能力が十分だったとは言えなかったため、市内の日本語指導ボランティアグループにお願いして週3回各回90分の日本語研修を準備した他、受入課内でも手の空いている職員が交代でwordの使い方等を教える等の細かいサポートに留意しました。

(1) 国際交流貿易課 6月24日～7月30日 8月30日～9月10日
10月25日～11月12日

受入課の国際交流貿易課では、「体系的な国際会議等の準備及び運営状況を研修したい」との希望を踏まえ、姉妹都市の使節団受入業務に就いてもらいました。東海市親善使節団受入にあたっては、東海市長の敦賀市長表敬訪問に通訳として立ち会っていただいたほか、受入に先立つ書簡のやりとり、市長歓迎夕食会の準備などに関わっていただいて、敦賀市の国際親善使節団の受入業務について、実際に体験していただいた詳細な部分も多かったと思います。

また、文化芸術行事への関心が深いということで、敦賀国際交流ネットワーク主催の国際交流イベント、県の国際交流センター主催の国際交流イベントの両方に参加していただき、本市・当地域での国際交流、多文化共生推進の状況を理解・把握していただけたかと思えます。後者の「嶺南国際交流のつどい」では市内の日本語指導ボランティアグループの依頼で国際交流について日本語でのスピーチを披露しました。



11月3日（日）REINAN 国際交流のつどいでのスピーチ風景

仕事にやりがいを見出せるよう、韓国語の翻訳が必要である場合は随時お願いし、課の職員もいっしょになって校正することで、朴さんの日本語の能力もみるみるアップしていったように思います。敦賀ロータリークラブの招聘でロータリークラブ会員のための出前講座として日本語での短い講演も経験していただきました。

（2）地域福祉課 8月2日～13日

「高齢者への福祉政策」への関心が高いということで、地域福祉課での研修を設定しました。研修中は、福祉総合センターで開催された高齢者虐待プロジェクト会議を見学した他、市内の施設（知的障害者授産施設、養護老人ホーム等）を積極的に視察し、本市の社会福祉について研修していただきました。

（3）健康管理センター 8月16日～27日

センター内で実施した事業の見学・視察等。歯のセミナー（1・2歳児と保護者対象）、ママパパセミナー（妊婦と配偶者対象）、1歳6ヶ月児検診（1歳6ヶ月児と保護者対象）。

（4）商工政策課 9月13日～10月1日

研修希望内容としてお聞きしていた「中小企業の活性化・輸出支援等」を受けて産業経済部 商工政策課での研修を組み込みました。研修として商工政策課の事業であるさまざまな補助金・貸付金制度について学んでいただいた他、関係する市内の施設（シルバー人材センター、敦賀 FM 局、嶺南ケーブルネットワーク等）を視察、また、ちょうど会期中だった敦賀市議会を見学していただき、本市の議会制度についての見識を深めていただきました。

（5）文化振興課 10月4日～10月22日

文化行政についての一般的説明の他、実地的な研修として市民文化祭（敦賀市文化協会事業）については展示準備作業から見学いただきました。希望の研修内容は

「補助金等に頼らない自発的な文化・芸術の活性化について」ということでしたので、研修期間の前でしたが県指定民俗文化財（阿曾相撲甚句、赤崎獅子舞）を見学していただいた他、仲秋観月茶会に参加、敦賀市文芸協会の公演事業見学、博物館の展示替に立ち会っていただく等、当市の文化行政について理解を深めていただけたと思います。

3 成果・課題

課内でも、決裁の方法や職場での女性の立場等、行政についての疑問点、また当市の港湾利用拡大に対する姿勢等、些細なことでも周りの職員に尋ね、疑問を解決する積極的な姿勢が見られましたが、やはり本人が報告書でも述べているように、言葉の壁は大きかったようです。長年交流のある姉妹都市とはいえ、近くて遠い町だった東海市が身近に感じられるようになった市職員も増えてきましたが、今後は受入側の態勢として、職員派遣・受入の実績を活かした韓国語の勉強会など、事前の準備を整えておく余地があるように感じました。また、専門研修先でも、日本語の能力が支障となって研修職員の専門知識や才覚が存分に発揮できなかった危惧もあり、語学力に左右されにくい専門的な研修の内容を工夫するの必要を感じました。

地元のメディアにとりあげられる機会も多く、親善大使としての役割も十分果たされたのではないかと思います。朴さん自身も今回の経験を活かせるよう東海市に戻っても国際交流の職に就きたいとお話で、今後も両市の友好の架け橋となつての活躍をお祈りしております。



ナホトカ市児童親善使節団受入時
そば打ち交流会にて

「看護師研修を受け入れて」

自治体名：山梨県

研修員名：陳 娟

派遣元自治体：四川省人民政府外事弁公室

研修分野：看護

研修期間：8ヶ月

主な研修部署：山梨県立中央病院・(社)山梨県看護協会（訪問看護ステーション）

1. 背景・目的

山梨県では、国際協力の一環として開発途上国の自治体の職員を本県に受け入れ、日本の先進的な技術や知識を習得する機会を提供するとともに、県民との交流を通じて友好親善関係の増進を図る事業としてこの研修を実施している。

当院では、過去に3名の看護師研修生を受け入れており、最近では、平成18年に看護管理の研修生を受け入れた経験がある。山梨の医療・看護の状況を知ってもらう機会としてまた、中国の看護の現状や文化にふれる良い機会となっている。



2. 研修内容、事業実施にあたって工夫、苦労したこと

当院では、循環器病棟を皮切りに2日～2週間を目安に14部署の研修を開始した。応募時に出された希望する研修分野を中心に実習できるよう計画を立案した。また、日本における地域連携の実際を現場で体験できるよう、今年度は訪問看護ステーションでの研修を、一ヶ月計画した。院内では、化学災害訓練や大規模災害訓練等も研修期間内にあったので参加できるよう配慮した。また土曜日であったが当院看護部学術集会(研究発表会)にも積極的に参加した。言語については、最初日本語の語学力について不安であったが、電子辞書を常に持ち、わからない時はすぐに引いて、理解するまで質問したり、自分から説明する熱心さが見られ問題はなかった。研修始めに師長会議で紹介・あいさつし顔を覚えてもらったことから、どこでも声をかけてもらえ、すぐにうち解けて病棟に受け入れられていた。



3. 成果・課題

14部署の看護師長及びスタッフの協力により、日本の医療・看護の特徴や当看護部の看護について見学・説明の中で伝えることができた。実習の中で日本と中国の看護体制や看護記録の違いを実感すると共に、自国で勤務している呼吸器科の医療・看護は同じようだと理解していた。どこの病棟に行っても積極的にコミュニケーションが図れ、熱心に勉強していた。研修希望にあった地域との連携については、院内の地域連携科だけでなく、日本では訪問看護が在宅医療を支えていることを伝え、3ヶ所の訪問看護ステーションの実習を加えた。病院からの連携システムがまだ確立されていない中国の状況なので大変参考になったとの事であった。また、学校で学んだ緩和ケアの知識を実際に実習し、再度学習することで理解が深まったと感動していた。当院の電子カルテを説明する中では、クリニカルパスに関心を寄せ、資料を集め学習をし、持ち帰った。病棟のオリエンテーション用紙やマニュアル等も熱心にメモし学習していた。陳さんからも中国の看護の様子を話してもらい体制や文化の違いにふれることができ、日中友好に繋がった。



「 友好都市中国雲南省麗江市から研修員を受け入れて 」

自治体名	岐阜県高山市	
研修員名	① 和 復光	② 和 暁燕
出身国	中華人民共和国	中華人民共和国
研修分野	観光	文化財
研修期間	10ヶ月	10ヶ月
主な研修先	観光課	文化財課

1 背景・目的

高山市は、2002年3月21日に中国雲南省麗江市と友好都市提携を結び、両地域の相互理解と友好関係を促進するために、さまざまな分野で人材の交流と協力活動を行うことに合意しました。2004年よりその交流・協力活動を具体化するために、この事業により麗江市から、観光、農業、教育などの幅広い分野でこれまで11名の研修生を受け入れています。当市は、2005年に周辺の9町村と合併し、日本一広い面積を有する都市であり、年間400万人を超える人々が訪れる国内有数の観光地です。近年、海外からの誘客に力を入れており、去年は40数カ国から約15万人の外国人が当市を訪れます。当市及び麗江市はともに古い町並みが保存されており、独自の伝統文化が伝えられ、山岳など素晴らしい自然景観を有しています。そういった背景の中で、麗江市から観光客の誘客、観光関連のインフラを含めた受入れ体制整備を図る中で、高山市の観光施策を参考にしたいとの強い要望があり、麗江市の行政担当者を研修生として、高山市並びに日本の行政施策を学んでいただくことを目的としています。

2 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

《和復光》

主に、観光施設等（飛驒の里、観光案内所）での研修を実施し、日本での観光行政について学ぶとともに観光案内所での通訳業務や、誘客についての知識を学ぶ。

研修当初は、日本語能力が乏しかったため、専門研修が円滑に行えるように同じく中国から来ている国際交流員による日本語講座を行った。市内に観光施設が充実しているため、さまざまな観光施設が充実しているため、さまざまな観光施設において現場での実務研修を充実した。

また、市民との交流の場として、友好都市麗江を紹介する「麗江ウィーク」を開催し、麗江の家庭料理教室を行い、市民との交流を深めるとともに市民の国際理解を深める機会ともなった。



麗江ウィーク料理教室

《和 曉燕》

主に、文化財課での研修を実施し、日本の文化財保護等について学ぶとともに観光案内所での通訳業務や、誘客についての知識を学ぶ。

研修当初は、日本語能力が乏しかったため、専門研修が円滑に行えるように同じく中国から来ている国際交流員による日本語講座を行った。文化財課での研修及び文化財が観光と密接なつながりがあるため、観光施設での実務研修も行った。

また、在住外国人が地域で安心して暮らせることを目的に行った「中日交流サロン」では、民俗衣装を着て民族舞踊を披露し、市民との交流を行った。



民族衣装で民族舞踊を披露

3 成果・課題

今年度の研修生は、麗江市では、主要産業である観光、文化財に従事しており、早くから国際観光都市として観光客の受入体制の整備を図っている当市での研修は現場での研修に重点を置き研修を行った。学校行事や地域の行事にも積極的に参加し、友好都市麗江市のPRを行うとともに、市民の国際理解を深めるきっかけとなった。

今年は、麗江市との提携10周年を迎える節目の年でもあり、今後益々盛んになる両市の交流の架け橋となっただけのことを期待している。

「徐 銀鳳さんを迎えて」

自治体名 : 岐阜県安八町
研修員名 : 徐 銀鳳
出身国 : 中華人民共和国
研修分野 : 一般行政
研修期間 : 10ヶ月
主な研修部署 : 総務部・民生部・教育委員会

1 背景・目的

安八町では、平成5年度から中国江西省南昌市・豊城市へ「少年教育交流団」として、小学校児童を対象に教育交流を行ってきました。また、平成19年からは中国江西省豊城市と友好提携を結び継続的に交流を行っています。

豊城市と安八町が今後も更なる交流を深めていくために、本年度、豊城市の職員である徐銀鳳さんを研修員として迎え入れました。

2 事業実施にあたっての工夫、苦勞したこと

研修員は、ある程度の日常会話が出来ていたのですが、来町後すぐに一般行政研修を始めることが出来ました。行政の専門領域での言葉や地域独特の方言などは通じないことが多くありましたが、研修員の向上心と積極的な勉強や質問によってとても早く行政の内容を吸収していました。

本人の希望も考慮しながら、さまざまな部署にて研修を行う中で、町内の保育園で保育体験として園児と接したり、小学校に1週間体験入学をして、児童と一緒に授業を受けたりして学校生活を送り、日本の保育や教育を体験しました。

交流の一環として、町主催の生涯学習講座で特別講座「徐さんの中国語講座」を開設し、講師を務めました。受講生には基本的な中国語会話を指導したり、豊城市の様子などを熱心に話したりしていました。受講生の中には是非とも豊城市へ訪れたいという意見も出るほど交流が深まっていました。

豊城市より交流団が来町した折には、通訳としてだけでなく、すべての行程に同行し、さまざまな面でのサ



教育委員会での研修の様子



「徐さんの中国語講座」授業風景

ポートができ円滑な交流事業を進める上で、重要な役割を担いました。

本町主催のさまざまなイベントにも準備段階から参加し、多くの町民と接し交流を深めることができました。

食生活の面において、住居付近にスーパーなど身近なお店が少なかったため、研修員は食材の調達などで苦労していました。時折、研修員担当の指導員と一緒に食材の買い出しに行くなどしていました。また、指導員の自宅において短期のホームステイや食事会、小旅行などをしたりして、研修員の生活面や精神面がより豊かなものになるよう支援しました。



豊城市友好訪問団来町時の様子

3 成果・課題

研修員にとっては、本研修において本町の行政、教育だけでなく日本文化や風習を学ぶとても良い機会だったと思います。また、本町にとっても、徐さんを通じて中国の文化や風習などさまざまな面で理解が深まりました。

今回の受入れにより、研修員本人だけでなく、町としても大きな成果を得ることができました。研修員は帰国し本来の職に戻りますが、研修だけに終わらせず、今後も豊城市と本町との交流において更なる友好の懸け橋となってくれと期待しています。

研修期間中には、国と国との諸問題も多発しましたが、お互い理解し合える環境ができており、今後の交流に大きな期待が持たれます。

課題としては、今回初めての受入れということもありますが、研修内容等においてまだまだ改善の余地があると思います。

「 浜松市 平成 22 年度自治体職員協力交流事業報告書 」

自治体名	浜松市
研修員名	ディルセ ベドゥン アパレシダ
出身国	ブラジル連邦共和国
研修分野	教育
研修期間	6ヶ月
主な研修先	浜松市外国人学習支援センター 浜松市立砂丘小学校 等

1 背景・目的

浜松市は平成 22 年度初めて L G O T P を活用しブラジルから教員受入を実施した。浜松市は国内でもっともブラジル人住民が多い都市としてこれまでも積極的に地域での共生を目指した施策を行ってきた。中でも、外国人の子どもの教育は本市にとって重要課題である。

ブラジル人の子どもは、ブラジルと日本を行き来することも少なくなく、特に最近では景気後退の影響を受け、帰国する子どもも多い。教育事情の異なる環境におかれた子どもたちには、多くの困難が伴う。こうしたことから、本研修は、両国の教育実情を理解し子どもたちの支援にあたることのできる人材育成ならびに外国人の子どもたちの教育環境向上を目指したものである。



砂丘小学校での挨拶の様子

ブラジルから現任教員を招聘することにより浜松市においては現在のブラジルの教育事情を研修員から学び外国人の子どもたちの支援に役立てることができると考えている。

また、研修員は日本での外国人の子どもたちの教育状況や日本の教育制度を学び、帰国後はブラジルで日本から戻った子どもたちの支援に活用することが期待されている。

2 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

初めての受入であったことや、当初交流のある都市からの研修員受入を検討していたため研修員の決定が遅れ、受入調整や研修スケジュールの作成に時間を要した。

本市の研修員は、全体研修と日本語ステップアップ研修を終了し 7 月に着

任したが、主な研修先である小学校等の教育関係機関が夏休み期間であることから、夏季期間における教育機関での研修のプログラム設定が難しかった。

研修員は来日してからはじめて日本語を学ぶこともあり、配属後も本市の外国人学習支援センターにおける日本語講座を研修内容にも入れ、自主学習教材を提供するなど日本語を継続的に学べるようにした。しかし、本地域では行政機関や研修先の小学校などに通訳が配置されていることからポルトガル語でのやりとりが容易にできる環境が整っているため、どうしても通訳を頼り研修期間を通じて研修員の日本語習得が思ったように進まなかった。研修員の日本語能力は今後の受入れ時の課題としてあげられる。

多くの研修先を訪れ地域で活動するブラジル人・日本人の教育関係者と交流をしたことで、浜松市で計画した研修プログラム以外にも様々な人たちが公私にわたり温かく研修員を受け入れていただいた。

3 成果・課題

外国人の教育に携わる関係者が、ブラジルの現役教員である研修員と現地の教育事情について情報交換や意見交換ができたことが大きな成果である。また、研修員はブラジル人保護者の中で、日本の教育制度や仕組みについて理解が十分でないケースに対しブラジルの現状と比較しながら日本の制度を守る必要性を説明するなど活躍した。

こうした貴重な経験を、帰国後に同僚職員等と共有し教育現場で活用したいと意気込んでいる。

研修員は、ブラジル人をはじめとする多くの外国人児童が学ぶ浜松市立砂丘小学校で研修し、学校長を中心に公立学校で実施している外国人の子どもたちと保護者への熱心できめ細かい支援をまのあたりにして、同じブラジル人として人として深い感銘をうけたと報告している。

本市としては研修中に築いたネットワークを活用し、日本とブラジルの架け橋として大いに活躍していただくことを期待したい。

次年度以降も本年度の経験を踏まえ、一層両自治体共に実りのある研修を実施していきたい。



浜松市立花川幼稚園見学

「教育交流都市ブラジルパラナヴァイ市から研修員を受入れて」

自治体名： 愛知県豊橋市
研修員名： アンジェラ・ダ・シルヴァ・ピコリ
派遣元自治体： ブラジル連邦共和国パラナ州パラナヴァイ市
研修分野： 教育
研修期間： 6ヶ月
主な研修部署： 教育委員会学校教育課 豊橋市立岩田小学校

1. 背景・目的

本市の公立小中学校には、平成 22 年度 4 月 1 日現在 1,122 人の外国人児童生徒が在籍しており、中でもブラジル国籍の児童生徒数は 762 人と外国人児童生徒の約 70% を占めています。

市教育委員会では、外国人の子どもたちが夢をもって学校生活を過ごせるよう、外国人児童生徒教育相談員やスクールアシスタントを配置するなど、環境整備を進めてきました。しかしながら、言葉の壁や文化の違いによって生じる様々な問題を抱えている外国人児童生徒は今なお多くいます。

こうした中、日本の教育制度の理解や、来日した児童生徒及びその保護者に対する指導への協力を期待して、市教育委員会では平成 19 年度よりブラジルの教員を受け入れています。研修員の帰国後は、現地で日本の教育制度を周知・指導し、公立小中学校での外国人児童生徒のスムーズな受入や不就学・不登校などの問題の解決を図ることを目的としています。

2. 事業実施について

(1)研修内容

今回の研修は、豊橋市立岩田小学校において、日本語の理解が十分でない児童を取り出して授業を行う国際学級での授業観察及び授業実習や、夏休みに外国人児童を集めて学習支援を行うサマースクールへの参加などを行いました。

(2)工夫したこと

1泊2日のキャンプなどの課外活動にも参加してもらい、通常授業以外の子どもたちの様子も見るができるよう工夫しました。



豊橋市役所表敬訪問

ブラジルの学校では珍しい課外活動ですが、集団での活動・生活や、自然の大切さを学べる貴重な機会であることを知ってもらえたと思います。

また、小学校だけでなく、中学校や高等学校、ブラジル人学校、就学前のブラジル人託児所に通う幅広い年代の外国人児童生徒の現状を知るため、各機関の参観を行いました。ブラジルでは、保護者が学校活動に参加する機会が少ないため、保育園の運動会に保護者も一緒になって参加している様子が興味深かったようです。

(3)苦勞したこと

学校生活には自然と馴染んでいくことができましたが、言葉の壁には悩まされていたようです。しかし、研修員が自発的に日本語教室に通ったり、学校の先生方の協力もあって少しずつコミュニケーションをとれるようになっていきました。

3. 成果・課題

外国人の保護者は生活の中で仕事の比重が大きく、子どもの教育に関心が薄い傾向にあるといわれています。そのため、研修員が国際クラスの保護者向けに日本の教育制度や学校生活、親の教育に対する関わりの重要性について講演を行い、子どもの教育や将来に関心を持つきっかけをつくることができました。

今後は、日本から帰国した子どもたちの現状や、ブラジルの教育現場の最新情報などの報告を研修員から受け、今後帰国する予定の子どもたちへの指導に活かしていきたいと思っています。また、日本の教育制度をブラジルで周知してもらい、来日する子どもたちが早期適応できるよう協力して取り組んでいきたいです。

本市では、日本の教育制度の周知や、日本へ入国する子どもたち・ブラジルへ帰国する子どもたちへの支援などを目的として、平成 22 年度から本市職員を半年間ブラジルパラナ州へ派遣しています。今後、ブラジルと豊橋市の相互の教員派遣を通して双方の教育環境向上に取り組んでいきたいと思っています。

研修員が半年間の研修で得た多くの知識と経験をブラジルへ持ち帰り、現地の学校で活かすことで、ブラジルの子どもたちの明るい未来をつくってほしいと願っています。



国際クラスの子どもたちと

「中国からの研修員に期待される役割の変化 ～友好交流人材から課題別交流人材～」

自治体名 京都府
研修員名 李文琦
出身国 中華人民共和国
研修分野 環境等公共政策、行政実務
研修期間 7ヶ月
主な研修先 京都府立大学公共政策学部、京都府国際課

1 背景・目的

- (1) 平成3年から友好提携先との人脈構築の位置づけで中国陝西省から行政実務の研修のため研修生を受け入れてきたが、近年、京都府と中国との交流は、従来の友好交流に限らず、経済、投資、観光、文化など多様な分野の交流にまで拡充してきたことを受け、京都府としても専門性の高い分野での交流の架け橋となれる人材を必要とすることとなった。
- (2) そこで今年度は、京都府と陝西省との間で締結した「環境ビジネス交流に関する覚書」に基づき、環境ビジネス分野での交流人材を育成すべく、高度な日本語能力とともに環境分野での専門性を有する人材を受け入れ、翻訳・通訳・中国との連絡調整業務や当地での人脈作りをしていただくとともに、大学等でのゼミの参加等を通じて専門性を向上していただき、帰国後も両地域間のビジネス交流等での架け橋となっていただくこととなった。

2 事業実施にあたっての工夫、苦勞したこと

(1) 人選

友好交流の促進と分野別交流のニーズに対応するため、日本語の高い能力とともに、環境分野で専門的知識や経験を有する人材を選定する必要があった。そのため、友好提携先で環境ビジネス交流を進めている陝西省を中心に人選を進め、中国環境法などを専門とする大学の教員の方をお迎えすることができた。

(2) 研修内容・日本語能力

京都府での研修は、更なる日本語能力の向上だけでなく、①交流事業における翻訳・通訳・講演等の実務研修、②大学と連携・協力した、環境等公共政策分野での専門性を高めるため



交流事業で講演する研修員

の研修、③中小企業を支援する団体の協力による京都企業等との人脈形成、など、実践的な研修内容とした。

(3) その他

また、各種の交流イベントや環境イベントにボランティアなどで積極的に参加いただいたり、府内北部の観光地視察によりその成果を中国向け観光PRに役立てる研修も取り入れるなど、研修生活がマンネリ化しないよう工夫した。

3 成果・課題

- (1) 専門性を高めるための大学での研修や行政実務研修等を通じて、研修員の方には、京都府と中国との、特に環境ビジネス分野における交流人材としての役割意識を持っていただくとともに、日本や京都府の環境政策、環境行政、社会福祉政策等公共政策分野での専門性を高められたことは、大きな成果であった。
- (2) 研修員の帰国後も、いかに京都府と中国との交流人材としての意識を持続し、実際の交流の架け橋となっただけのかが課題となる。そのため、研修員が帰国後は、京都府が平成22年10月に上海に設置した中小企業ビジネスサポートセンターのビジネスコーディネータとして登録していただき、中国ビジネスに必要な高度な専門知識やノウハウを有する人材として、販路開拓や事業提携等中国市場に進出しようとする京都府の中小企業を支援していただくこととしている。

自治体職員協力交流研修員を受け入れて

自治体名	鳥取県	
研修員名	林 暁琳 (リン・シャオリン)	金 蘭姫 (キム・ナンヒ)
出身国	中華人民共和国	大韓民国
研修分野	商工行政	商工行政
研修期間	10ヶ月	10ヶ月
主な研修先	商工労働部	商工労働部

1. 背景・目的

本県の国際協力の一環として、友好交流地域である海外の地方自治体職員を「協力交流研修員」として受け入れている。県庁各課において、本県が持つ行政実務のノウハウを習得させるとともに、派遣元自治体と人的交流を深めることで、本県の国際化を図っている。

本年度は中国吉林省及び韓国江原道からの研修生を受け入れ、商工労働部及びその関係機関で研修を行った。

2. 研修内容

厳しい経済環境の下、産業振興と雇用確保対策は本県政の取組みの中でも重要課題の1つである。また、鳥取県境港市と韓国・東海、ロシアウラジオストクを結ぶ環日本海定期貨客船航路の就航、G T I（広域図們江開発計画）への参加など、北東アジア地域との経済交流に積極的に取り組んでいる。

このような状況の中、林暁琳研修員、金蘭姫研修員には、以下のとおり研修を行った。

日程	林暁琳研修員	金蘭姫研修員
7月	語学研修：日本語研修	市場開拓局：県産品の販路開拓支援、地産地消の推進等
8月	商工政策室：商工労働部の事業概要	産業振興総室：農商工連携等の新事業
9月	経済通商総室：北東アジア地域との経	開拓、省エネ等の環境産業振興、企業
10月	済交流、貿易支援等	立地の推進、産学官の連携等
11月	雇用人材総室：労働施策、就業支援等	商工政策室：商工労働部の事業概要
12月	産業振興総室：農商工連携等の新事業	経済通商総室：北東アジア地域との経
1月	開拓、省エネ等の環境産業振興、企業	済交流、貿易支援等
2月	立地の推進、産学官の連携等	雇用人材総室：労働施策、就業支援等
3月	経済通商総室：研修のまとめ	産業振興総室：研修のまとめ

3. 事業実施に当たっての工夫、苦労したこと

林暁琳研修員には、県内、県外で開催された境港、環日本海貨客船航路の利用促進のための「境港利用促進懇話会 in 大阪」、雇用就業支援のための「とっとり・しまね企業ガイダンス」等の各種イベントに積極的に参加してもらい、日本の多くの企業等に触れもらった。また、昨年12月に鳥取県で開催された「北東アジアビジネスフォーラム」では、スタッフの1人としてイベント業務にも携わってもらうとともに、日本語能力のスキルアップを図るため、研修期間を通じ日本語の研修を実施した。

金蘭姫研修員には、県内、県外で開催された産業振興のための「鳥取産業フェスティバル 2010&鳥取環境ビジネス交流会 2010」、環日本海貨客船航路の利用促進のための「江原道投資環境・環日本海貨客船航路説明会」等の各種イベントに積極的に参加してもらい、日本の多くの企業等に触れてもらった。また、鳥取県の伝統産業、食のみやこ鳥取県を体験してもらうとともに、経済分野に関連した韓国での新聞報道等を情報収集してもらうなどの業務にも携わってもらった。

林曉琳研修員、金蘭姫研修員ともに余暇の過ごし方として、他の国際交流員や研修員とともに食事に誘うことで、交流員、研修員と知り合うきっかけを与え、孤独を感じないように努めた。

また、両研修員は、持ち前の好奇心と人柄で言葉の壁を乗り越え、様々な分野の人たちと交流を行った。これは我々の努力ではなく、やはり自らの前向きな気持ち、そして様々なものを吸収するための努力を惜しまなかった本人の能力によるところが大きいと思われる。

4. 成果・課題

林曉琳研修員、金蘭姫研修員ともに各部署での研修を積極的にこなし、様々な活動に参加した。なお、本県における研修の満足度は、研修員本人にゆだねたい。

帰国後は、本県と中国吉林省、韓国江原道との交流の架け橋となることを期待するとともに、我々もより一層、努力していきたい。

<林曉琳研修員>



県庁商工労働部での研修の様子

<金蘭姫研修員>



県庁商工労働部での研修の様子



鳥取しゃんしゃん祭りに参加



小学校人権フェスティバルに参加

